

●実施店舗：マルハンメガシティ2000蒲田7



実際にニューギン・アドバンス営業マンが交換作業をやってみました!

株式会社ニューギン・アドバンス
営業部 菊池 晃史 氏



① 設置中のスマスロ機を外す。



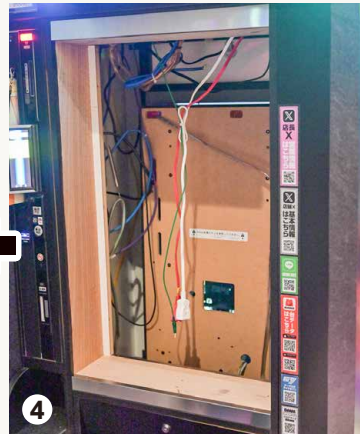
② 4本のビスおよび木枠(セルフリムーヴ)を外す。



③ 木枠を上下に反転。これにより木枠がスマスロ仕様からスマパチ仕様に。



⑤ スマパチ機を設置し、e⇄L切り替えが完了。所用時間は約3分。



④ 再び木枠及び4本のビスを取り付け。

必見!!
『セルフリムーヴ』
紹介動画



である。壁際のデッドスペースや利用頻度の低い景品棚など、有効活用しにくかった空間にも島を設置できる。例えば、休憩室を廃止して禁煙遊技エリアを設けた上で、既存の遊技機エリア全面を加熱式たばこエリア化するなど、ホールの状況に応じたレイアウト変更も自在だ。こうした柔軟性は、トレンドの移り変わりが激しい遊技機市場において、店舗づくりの自由度を高め、集客戦略の幅を広げる大きな強みとなっている。

また、その構造と信頼性の高さは業界内でも高く評価されている。一般社団法人日本iスポーツ機構が主催する遊技機入替作業の全国大会「i-1 GRAND-PRIX」では、競技用島として採用された実績を持ち、実用性と技術性の両面で優れた製品として地位を確立しつつある。

同社では、今後も稼働促進に繋がる島レイアウトや装飾提案に力を注ぎ、『セルフリムーヴ』を中心としたホール運営の新たな価値創出を目指していく。

セルフリムーヴ

SELF REMOVE

特許取得済み

3つのZEROを実現

工期ゼロ	▶ 1台の変換作業に要する時間は僅か3分足らず
保管部材ゼロ	▶ 変換作業に必要な追加部材が不要
外注費ゼロ	▶ ホールスタッフでの変換が可能

1台わずか3分でe⇄L切り替え完了

「はずして」「まわして」「くるりんぱ」(ひっくり返す)だけでe⇄L切り替えが完了——この手軽さが好評を博しているのが、(株)ニューギン・アドバンスのスマート遊技機専用島『セルフリムーヴ』だ。煩雑だった切り替え作業を簡素化し、ホール運営の効率化に大きく貢献している。

従来、P⇄S切り替えを行う際には、専用部材の保管や専門業者の手配、これに伴うコスト(1島あたり50万円程度)が発生していた。『セルフリムーヴ』はこうした費用や準備作業を不要とし、スタッフのみで1台あたりわずか3分という短時間で切り替えを実現する。

作業手順も明快だ。木枠を留めている4本のビスを外し、取

り外した木枠を上下に反転させて再び固定するだけ(次ページ参照)。必要なパーツは木枠1つのみとシンプルで、軽量のため女性スタッフでも無理なく扱える。この手軽さが現場で高く支持される理由のひとつだ。

柔軟な島設計で
トレンド変化に対応

さらに同製品は、柔軟な島設計を可能にする点も大きな魅力



昨年12月に開かれた「i-1 GRAND-PRIX 日本シリーズ2024」。遊技機入替のスピードと精度を競うこの大会に、『セルフリムーヴ』が採用された。

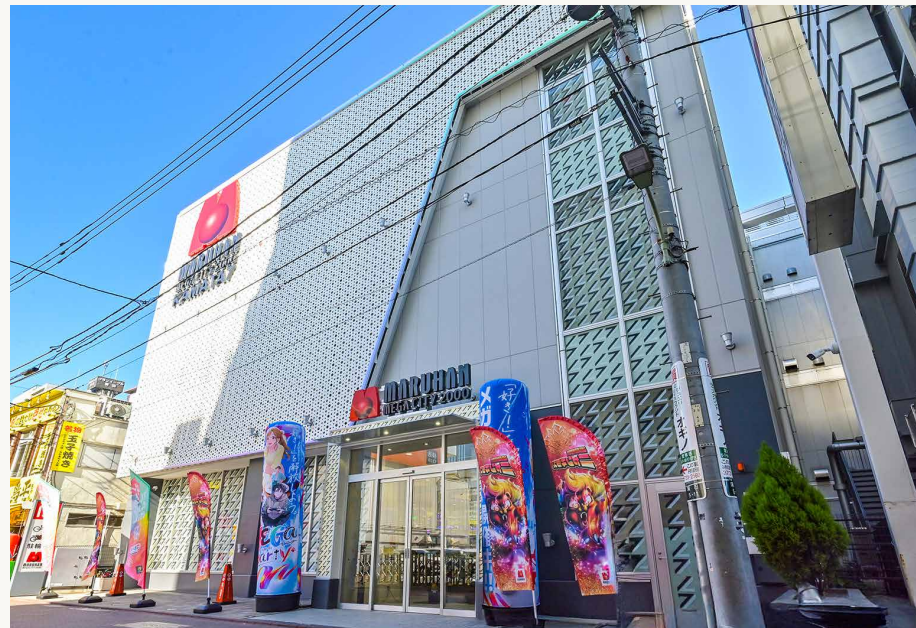
P⇄S切り替えの常識変えるくるりんぱ

木枠(セルフリムーヴ)ひとつで完結する、極限までそぎ落とされた構造。作業スピード、コスト軽減、全てがシンプルに進化する。

《マルハンメガシティ2000蒲田7》セルフリムーヴ 導入レポート



「セルフリムーヴ」は現在、スマスココーナーとして運用中。上部に物置スペース、ユニット下に飲み物置き場を完備する。



《マルハンメガシティ2000蒲田7》(東京都大田区)。



白井哲朗店長



前店舗時代に設置されていた賞品カウンターを撤去し、その場所に「セルフリムーヴ」を32台(4列分)を設置。

オープン後のトラブルなし、信頼性抜群

都内屈指の高稼働ホール《マルハンメガシティ2000蒲田7》。トレンド転換も見据えた「セルフリムーヴ」導入など、営業面の死角なし。

トレンド転換を見据えて、先手

令和7年7月7日のグランドオープンで一躍注目を集めた《マルハンメガシティ2000蒲田7》。若年層を主なターゲットとする同店の特徴は、パチスロ715台、パチンコ292台という市場トレンドを反映したPS比率だ。前店舗時代よりもパチスロを60台増台。既存島の延長や2階カウンター跡地の遊技島化によって違和感なく再構成し、開放感と機能性を両立させた設計となっている。また、カウンターのオールセルフ化をはじめとする最新設備を導入し、利便性と快適性を高めた。

こうした設備群の中で、店舗の柔軟な運営を支えるのが(株)ニューギン・アドバンスのスマート遊技機専用島「セルフリムーヴ」だ。

同製品は、「はずして」「まわして」「くるりんぱ(ひっくり返す)」という3ステップでP↕Sを切り替えられる可変島構造が特徴。専門業者を手配する必要がなく、1台あたりわずか3分で切り替えが完了する。

「セルフリムーヴ」を導入した理由について、白井哲朗店長は「中長期的に見てパチンコ市場が再び活性化できる可能性もあるため、柔軟に対応できる体制を整えたいと考えました。『セルフリムーヴ』は簡便な構造で切替も早く、コスト面のメリットも大きい点を評価しました」と話す。

連日の高稼働トラブル1件もなし

同店では「セルフリムーヴ」以外の島も(株)ニューギン・アドバンス製品を採用。オープンから3ヵ月以上が経過した現在、

その運用面について白井店長は「セルフリムーヴ」を含めトラブルが1件もありません。これまで複数の新店立ち上げに携わってききましたが、こうしたケースは初めてです」と高い信頼性を評価した。

同店の数十メートル圏内には、系列店の《マルハンメガシティ2000蒲田1》も営業している。「蒲田7」はパチスロ主体、「蒲田1」はパチンコ主体と役割を分けながらも、両店舗を一体運営の視点で捉え、エリア全体での営業強化を図る方針だ。

「連携して営業していく中では、時に臨機応変な機種戦略が求められます。その際、『セルフリムーヴ』があれば即時対応が可能です。非常に心強い存在です」(白井店長)。

オープンから3ヵ月を経た今も稼働は好調で、連日多くのファンが足を運ぶ。「セルフリムーヴ」の存在は、激戦区・蒲田エリアにおいて、同店の安定稼働と戦略展開を支える確かな切り札となっている。